

校区テーマ

行事を通して子どもたちの体験をつないでいく

4月

5月 幼保こ小連絡会

6月

7月

8月 夏期研修会

9月 参観日訪問

10月 運動会見学

11月 合同発表会訪問

12月

1月 幼保こ小連絡会

2月 体験入学

3月

桜塚小学校での取り組み

遠足や運動会、作品展、異学年交流など様々な行事を通して、「人とつながる」「チャレンジする」力がついてきた。

4月中は、新しい環境で不安な気持ちから、周りの子どもに興味を持たず、友だち関係が狭いままであった。そこで遠足や体を動かしたり、話し合いをしたりする活動を取り入れた授業を通して、徐々に周りの子どもに目がいき、自分から関わりをいこうとする子どもの姿も見られた。

また、一人一役任せることで、責任を持ち、行事に取り組み、それが自信となり、多方面へチャレンジする姿を見ることができた。

さくらづか保育園での取り組み

進級当初は、嬉しさや不安な気持ちから落ち着く事が難しかった子ども達でしたが、様々な取り組みや行事を通して成長し、自分への自信が芽生えました。

一つ目は、異年齢での関わりです。最初は関わり方が分からず戸惑っていましたが、関わりを通して、相手の気持ちを考える、優しく接するなど子ども一人ひとりの意識の変化が見られ、頼られる嬉しさを感じられるようになりました。

二つ目は、食育です。食に対しての意欲が見られなかった為、ジュース作りや野菜の栽培、収穫、クッキングなど様々な取り組みをする事で、食材に興味を持ち少しずつ食べる事が好きになっていきました。

食育を通して、畑作り・毎日の水やりなどの過程を知る事で、食べた時より美味しさを感じる事ができました。

豊中幼稚園～幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の視点から～

豊中幼稚園では、幼児の今の育ちを丁寧に見取りながら、10の姿の観点を指標の一つとして振り返りの時間を持っている。振り返りの内容を基に、次の育ちの手立てを考え、実践し、幼児の変化や成長に気づいていくというプロセス（PDCAサイクル）を教育計画の中心に捉え、実践に繋げていくことを目標に取り組んでいるところである。また、教師同士の対話を密にし、様々な視点から見た幼児の育ちを考慮した評価を行うことに留意し、園全体で一人ひとりの幼児の育ちを見守り、支えていくことが大切であると考えている。

行事は特別な取り組みではなく、あくまでも幼児の育ちの過程の一部であることを念頭に総合的な育ちを見取ることが重要であり、クラス全体への視点に加えて、一人ひとりの育ちにも着目し、個別最適な関わり方にも留意していくことが求められている。